

【編集後記】

《 23生 》

今 82 号では、1 年生が取材、2 年生が編集ということで、全作業を 6 人で行った前 81 号より負担が減る……はずだったのに、どうしてこうなった……というのが、現在まだ編集作業中の僕の心情です。というもやはり、総科必修の展開研究が諸悪の根源（←言い過ぎ）なのですが、その必修科目もなにやら 25 生の代から無くなるという噂もちらほら。また、現在の 10 (+自主編成) プログラム制度も解体・新生され、ひとつの「総合科学プログラム」へとリニューアルするようです。移り変わる社会とともに、総科も転機を迎えています。次回 83 号では、これらの特集を組みますので楽しみに!!

飯 尾 優一郎

副編集長をやらせてもらっている大濱です。今季の飛翔に関しては、何と言っても、1 年生がたくさん入ってくれたことに感謝したいです。これからも、たくさんの方が飛翔を続けていってくれれば良いなと思います!

本誌では、OB・OG の取材を手伝いましたが、後輩に迷惑をかけてしまうことも多々……。1 年生は本当によく頑張ってくれたと思います! 個人的には OB・OG のコーナーが好きで、編集していて楽しいです。ぜひ読んでください。

大 濱 高 佳

今回の飛翔では特集の編集担当をしました。1 年生には研究室紹介や他の記事でなかなか特集まで手が回らず大変だったのではないのでしょうか。ですが自分の書いた原稿がきれいに製本されたときの喜びを知ってもらえたらいいなと思っています。これからも読んでいて楽しんでもらえる飛翔を目指したいと思います。

加 藤 正 暉

4 月の最初に各教ゼミに行き、勧誘活動をしてから 3 ヶ月も経ちました。

勧誘に行った時は誰もやりたがらないと思っていましたが、去年よりも人が集まり今年の 1 年生は活気があるなぁと思いました。後期も皆で和気あいあいと過ごせたらいいと思います。前期は専門の授業も始まり少し忙しくなりましたがそれもだんだん慣れてきて、あまり手伝えなかった飛翔の仕事も後期は手伝っていこうと思います

西 道 涼

飛翔を手にとってくださった皆様、ありがとうございます。私の編集員としての活躍はほんのお手伝い程度でしたが、1年生が頑張っている様子を知ると嬉しかったです。もうすぐテストなのに頑張ってくれた編集員の皆へ、ここでお礼申し上げます。本当にお疲れ様でした。

追伸) ほっとけないほどのホットな気温でほんとに参るでしょうが、これからも飛翔をよろしくお願ひします。

豊 岳 実 由

《 2 4 生 》

飛翔の活動に何もわからないまま携わって大丈夫かなあと、思いましたが何とか最後まで色々な人と協力しながらやりきることができました。やっぱり文章を書くことは難しいですね… 悪戦苦闘しながら原稿を書きました。まだまだですね。頑張っていきたいです！

赤 澤 直 樹

今回、飛翔の編集員をやるととてもいい経験ができました。自分で取材し、記事を考えるという作業は正直苦手だったので、しっかりできるか不安でしたがなんとかやり遂げることができました。また、先生の生の声を聞いて参考になった部分がありこれからの生活に役立てていきたいです。

岩 野 雅 俊

最初はただ興味本位で飛翔の委員になったのですが、実際やってみると、取材する楽しさを感じることができた。また、取材するときの新しく始めなければならないことが不安でもあり、ドキドキさせられた。ほかに、取材の文字おこしたとき、上手くまとめることが実に大変であることを痛感したが、まとめることは結構楽しいし、どういう風にまとめたらいいかを考える時間が面白かった。時間があれば、またやってみたいです。

上 野 豊 碩

今回、私は飛翔の編集委員として、研究室紹介とOB紹介を担当させていただきました。研究室紹介では、普通ではなかなか話す機会がない先生からいろいろな話を、OB紹介では博多まで行き、就職された人生の大先輩の話を直接聞くことができ、本当にいい経験が出来ました。後期も頑張っていきたいと思います。

上 野 裕 介

今回はスケジュールの都合上、取材には参加できず、大変残念でした。しかし、仲間と協力して一つの文章をまとめることの難しさとおもしろさの両方を学びました。また、編集員各々に自分の時間割があり、いつでも集合できるわけではないため、いつ集まって話し合えばよいのか、それまでに何をしておけばよいのかという連絡の重要性を痛感しました。

上 床 真理子

今回、取材を受けてくださった先生や OB の方から総合科学部に対する思いを聞いて大きな衝撃を受けました。これが「総科」なんだなあ、と。背筋がピシッと伸びるような貴重な経験となりました。

同じくらいの衝撃を受けるような文章を書きたかったのですが、まだまだ修行が足りないですね。先生や先輩のメッセージが読んでいる人に少しでも伝わってくれたらいいなと思います。ありがとうございました。

岡 添 り え

申し訳ないことに、私が飛翔に関わろうと思ったのはただの興味以外の何者でもないのですが、取材をしてみると自分が想像していた以上に面白い話を聞くことができ、本当に楽しかったです。取材から得られる情報や、聞けるお話の内容の濃さや面白さは、こちらの質問の仕方や話の振り方次第ということもわかりました。これから相手の話を引き出すスキルを勉強してみたいです！

岡 田 早 紀

今回初めて取材、編集に関わりました。以前からやってみたかった文字起こしの作業は、思ったより楽しかったです。取材内容を後からゆっくり聞いてみると、取材当時には思わなかった事も頭に浮かんできて、聞けば聞くほど味がでる、そんな作業でした。教授への取材でも自分の中で新たな視点が発掘されたようで、とても良い経験になりました。

栗 栖 千 尋

日本語も上手くないし、文章も苦手な私でも「飛翔」の編集できるかなと躊躇しながら「飛翔」に入りました。何をするのがさっぱりわかりませんでしたが、23 の先輩の指導や 24 同士の話し合い、助け合いがあって、何とかできたような気がしてきました。何もしていない私は忙しそうに編集員たちが頑張っている姿を見るだけで、今度の「飛翔」を皆さんに読んでいただきたいと思います（だって、努力した成果を他の人に見せたいのは当然だ）。

江 永 如

今回初めて雑誌の編集というものに関わらせていただき、教授へのインタビューや記事の作成など、今までやった事ないことばかりで本当に学ぶ事が多かったです(*^~^*)

インタビューに快く応えてくださった清水先生、仕事をいっぱいこなしてくれたみんな、助けてくださった先輩方……特に、迷惑をかけまくっても見捨てないで居てくれた優しいファラオさん、ありがとうございました……！大好きです！

鈴木 久美子

人と話をすることが大好きな私にとって、飛翔の編集員として他の編集員や先輩の方々とお喋ったり、教授の方々のおもしろい考え方を吸収したりしたことは、とても刺激的で楽しかったです！取材を通し普段の講義だけではわかりにくい教授の方々の魅力を知れたので、これからもっとたくさんの人と話をし、その魅力に気付いていけたらな、と思いました。

高松 方子

飛翔編集部に入ってから雑誌の記事作りも、取材に行くのも初めて体験しました。取材では、あらかじめ聞くことを決めてはいたのですが、いざ現場に行くと緊張してうまくできなかったなあと感じています。次の機会があれば、先生とのお話のなかでもっといろいろなことをうかがってみたいと思います。勉強になりました。

田中 里奈

教授の方へのインタビューがこの飛翔の記事になるまでのお話。まず、教授のお話を録音します。録音した音声は、対面してお話しているときの印象とずいぶん異なっているように思えます。次に、録音したものをすべて文字におこします。ここで、さらに表情はがらりと変わります。冗談めかした雰囲気だったものが、嫌味っぽく、まったく逆の印象になってしまうこともしばしばあります。最後に、文字におこしたものは要約したり、切り貼りしたりされます。はい、まったくの別モノの完成です。……とならないように苦心しました！零れ落ちていく表情や、言葉遣い、間、笑い声、一生懸命拾って言葉にしている作業、精神を使いますが楽しかったです。

永井 千晶

本号ではスポーツ科学プログラムの研究室紹介と OG 取材を担当させていただきました。入学したばかりでまだ学校生活に慣れない中、取材に行き、原稿を書きと忙しい日々でしたが、いろんな方と出会ってお話を聞くことができとても楽しかったです。

藤本 迪子

飛翔の編集委員は、各教養ゼミから 1 人以上ということで、その 1 人になってしまいました（?）。道連れ作戦もうまくいかず……。しかし、活動していくうちに、他の編集委員仲間と分担・協力して「飛翔」作りに関わることができたことは、私の自慢の一つになったと思います。

真面目っぽい話はここまでにして、単純な感想を。特集で食堂を取り上げたおかげで、広大の食堂通に一步近づいたと思います（笑）。

原 田 みずほ

研究室紹介では授業だけでは垣間見ることのできない教授の一面を見ることができて面白かったです。先生も大学生時代は大学生していたんだなと思いました。また OG 取材も担当させていただきました。実際に働いている人の話を聞くことができて楽しかったです。そこで、宮キャンが意外にも長く続いている事を知ってびっくりしました。

安 田 香 穂

《教員・事務の方々》

私は、この 4 月に広島大学総合科学研究科に赴任してきました。学生たちで作る飛翔、広島大学総合科学部の学生たちの素晴らしい取り組みだと思いました。大学時代の友達は、いつまでたってもとても大事な仲間です。編集委員として、いろいろな先生や先輩方に話を聞き、自分たちの今後を考えながらも、友人同士の絆ができていく良い企画ですね。今回の飛翔は食堂まるわかり情報など個人的にもありがたい情報でした。今後も、この編集を通じて知り合いになれた仲間たちや取材で知り合った先生方との人間関係を大切に、自分の進む道を見つけて行ってください。

佐 藤 明 子

2011 年の不安と停滞のとき、日本全体が姿勢を正したことを覚えていますか。私たちのなかに問題意識を持つことの重要性を教えてくれたように思います。社会に関わりを、関心を持つことが様々な場面での力をつけてくれると信じています。「飛翔」を作ることも社会との重要な接点になり得ると思います。飛翔を通してひとりひとりの力が試されているのかも知れませんが、実は「飛翔」の編集を通じて得た力は、目には見えないけれど現在に未来に繋がっていくものと期待しています。今号は編集に携わった皆さんの力に感服しています。

木 田 恵 子